ハザードマップの使い方

ハザードマップの見方

①自宅や勤め先、学校などの周辺の浸水状況や危険箇所をハザードマップで確認しましょう。
②避難場所や避難経路、家族との連絡手段などを、みんなで話し合いましょう。
③安全な避難行動をすぐに取れるように、日ごろから備えを確認しましょう。

1 自宅や勤め先、学校などの周辺の危険箇所をハザードマップで確認しましょう。

2 あらかじめ、避難場所や避難経路、家族との連絡手段などを話し合いましょう。

3 いざというときの安全な避難行動、日ごろからの備えを確認しましょう。

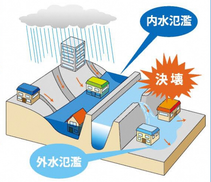
内水氾濫と洪水の違い

内水による浸水と、洪水（外水）による浸水は、発生するメカニズムが違います。
洪水は河川から水が流出して浸水しますが、内水は雨の水が排水できずに浸水します。

内水による浸水と洪水の違い

内水による浸水（内水氾濫）
雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなったとき、雨水を排水できずに、浸水することがあります。

洪水（外水氾濫）
大雨によって河川の水位が高くなると堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。



家族の連絡先

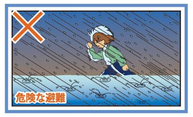
氏　名	血液型	電話番号（携帯・会社・学校）	メールアドレス	メ　モ

※家族のほか、親戚・知人などの頼りになる人の連絡先も記入しておきましょう。

避難の方針

立退き避難（水平避難）と屋内安全確保（垂直避難）

内水氾濫では、必ずしも立退き避難（水平避難）する必要はありません。想定されている浸水深が3m未満であれば、２階以上は安全です。自宅内や近隣の高い建物でも安全が確保されるのであれば屋内安全確保（垂直避難）できます。ただし土砂災害の危険性がある場合は、屋内でもがけ等と反対側に移動するようにしましょう。命を守る行動が避難行動です。


危険な避難

危険な場所からはなれる（立退き避難）

高所への避難（屋内安全確保）

土砂災害の危険がある場合
がけと反対側の２階以上へ避難します。
何よりも命を守る行動を !!

自宅内や近隣建物に安全な場所がある場合は、無理に立ち退き避難せずに自宅等にて避難することも検討してください。

避難方針

内水ハザードマップや洪水・土砂災害ハザードマップで自宅等の浸水深を確認し、場所に応じた避難をしてください。

ハザードマップで自宅等を確認

浸水想定区域内 土砂災害警戒区域内	浸水想定区域外 土砂災害警戒区域外

→ 自宅等にて避難（屋内安全確保）。
※土砂災害警戒区域、浸水想定区域に近い場合や危険を感じる場合は、必要に応じて避難しましょう。

立退き避難の必要性を確認

想定される浸水深より低い階に居る 土砂災害警戒区域内 家屋倒壊等氾濫想定区域内	想定される浸水深より高い階のある場所に居る

→ 自宅等にて避難（屋内安全確保）。
ただし、水が引くまで過ごすための飲料水・食料・携帯トイレなどの備えが必要です。
※目安は3日以上（推奨1週間）

自宅等は危険です。避難が必要な場合は、避難所等へ避難しましょう。
※親戚や知人宅への避難も検討しましょう。

避難のタイミング

タイムライン

災害が発生するおそれが高まった時に、気象庁や佐野市から５段階の警戒レベルが発表されます。
警戒レベルに応じて、安全な避難行動をしてください。

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報ととるべき行動

警戒レベル	気象情報	気象庁等の情報（令和8年3月下旬(予定)より変わります。）	佐野市からの情報	市民のみなさんがとるべき行動
1	大雨の数日～約1日前	早期注意情報（警報級の可能性）		災害への心構えを高める
2	大雨の半日～数時間前	大雨注意報 氾濫注意報 土砂災害注意報		ハザードマップ等で避難行動を確認
3	大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報 氾濫警報 土砂災害警報	高齢者等避難	危険な場所にいる場合 避難の準備 避難に時間を要する方は早めに避難
4		大雨危険警報 氾濫危険警報 土砂災害危険警報	避難指示	危険な場所から全員避難 お互いに助け合い避難しましょう。 道路冠水や土砂崩れ等により、避難が困難な状況になる前に避難を完了 危険な場所にいる場合は安全な場所に避難 自宅等から外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
5	災害が発生または切迫	大雨特別警報 氾濫特別警報 土砂災害特別警報	緊急安全確保 すでに災害が発生している状況	命の危険 直ちに安全確保!

＜気象防災速報＞
2026 年（令和 8 年）5 月下旬（予定）から気象庁より、線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など極端な現象が発生または発生しつつある場合に速報的に伝える情報として、気象防災速報が発表されます。
※線状降水帯とは、次々発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過・停滞することで、同じ場所で非常に強い雨が降り続く現象です。

避難時に出される情報

避難情報と警戒レベル

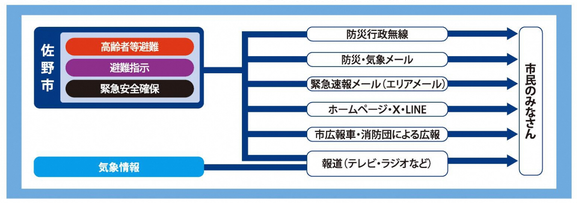
風水害時には、警戒レベル等や周辺の状況を勘案して、佐野市からレベルに応じた避難情報を発令します。

警戒レベル	種類	住民に求める行動内容
警戒レベル 3	高齢者等避難	避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、危険な場所から避難しましょう。また、高齢者以外の人も、必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をして、危険を感じたら自主的に避難を開始するタイミングです。
警戒レベル 4	避難指示	危険な場所から全員避難しましょう。
警戒レベル 5	緊急安全確保	直ちに身の安全を確保しましょう。 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。「緊急安全確保」の発令を待ってはいけません。

避難情報が出ていない場合でも、身の危険を感じたら、すぐに避難しましょう。

情報伝達の流れ

佐野市等から市民のみなさんへ、以下の方法で防災情報を発信します。



早期立退き避難

早期立退き避難が必要な区域（※佐野市内に内水氾濫での設定はありません）

これらの区域では立退き避難をしてください

浸水深3.0m以上になる区域	洪水時に家屋が倒壊するおそれのある氾濫想定区域	土砂災害警戒区域内
※建物が1階建ての場合は、浸水深0.5m以上になる区域	（家屋倒壊等氾濫想定区域内）	※土砂災害からの避難は立退き避難が基本

情報の入手方法

緊急時の情報入手先

インターネットなどからも情報を入手できます。自ら情報を入手しましょう。

インターネット

■佐野市ホームページ
佐野市　検索
https://www.city.sano.lg.jp/index.html

■気象庁
気象庁　検索
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

■佐野市公式X@SanoCity_PR
@SanoCity_PR　検索
https://x.com/SanoCity_PR/
市政・防災・観光情報などを発信していきます！

■宇都宮地方気象台
宇都宮気象台　検索
https://www.data.jma.go.jp/utsunomiya/

■栃木県危機管理・防災ポータルサイト
栃木県防災　検索
https://www.pref.tochigi.lg.jp/kurashi/bousai/index.html

■気象庁 あなたの街の防災情報
あなたの街の防災情報　検索
https://www.jma.go.jp/bosai/

■国土交通省 川の防災情報
川の防災情報　検索
https://www.river.go.jp/index

■気象庁 キキクル
キキクル　検索
https://www.jma.go.jp/bosai/risk/

佐野市公式 LINE

佐野市では、公式 LINE アカウント運用しています。
大規模災害時には、避難情報や市内の状況、支援の情報などを配信します。
右のコードを読み取るか、LINE の友だち追加画面で「検索」をクリックして友達追加してください。

佐野市防災・気象メール

佐野市では、皆さんが安心して生活できるよう、市内の火災情報や防災情報、気象情報（大雨・暴風・土砂災害・地震など）や避難情報などを、ご登録されたパソコンや携帯電話などのメールアドレスにメールを配信します。
右のコードを読み取るか、login@sano-city.mailio.jp を直接入力し、空メールを送信することにより、登録の手続きをしてください。

避難の心得・大雨時の危険な場所

避難の心得

避難時にあわてないため、日ごろから避難の心得を覚えておき、必要なものを準備しておきましょう。
また、みんなで避難の手順について話し合っておきましょう。
災害時には、正確な情報を入手して、すばやく避難しましょう。

●状況により、すばやく避難
避難情報などが発令されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

●家族には連絡メモを残そう
外出中の家族には「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。

●わが家の防災メモを持とう
住所・氏名・連絡先などを記載した防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。

●集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

●車での避難は控えて
車は、約 30cm の浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

●安全なルートで避難
川べり、がけ沿いなどは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

●非常持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

●避難所では指示に従いましょう
避難所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

大雨時に危険な場所

指定緊急避難場所や指定避難所までの路上には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から身の回りの様子を観察し、大雨のときに注意すべき場所を確認し、ハザードマップに書き込んでおきましょう。

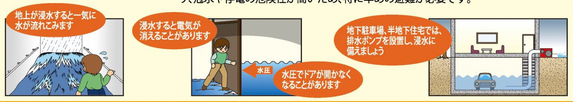
●地下道（アンダーパス）
地下道（アンダーパス）は、大雨時には周辺から水が流れ込み危険です。

●土砂災害警戒区域等（がけ崩れの危険がある区域）
「がけ（急傾斜地）」は、大雨が降ると崩れるおそれがあります。大雨時には近づかないようにしましょう。また、「がけ」の近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。

●水路の周辺
水路には、ガードレール等の柵がないことがあります。浸水時には、水路の場所が分からなくなり、誤って落下し、流される危険があります。

●浸水実績箇所
周辺よりも低くなっていることが多く、水が溜まりやすいので、注意が必要です。

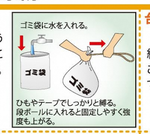
大雨時の地下は注意が必要
洪水や豪雨時の地下施設、地下室などは危険です。地上の浸水状況とは大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。



日ごろの準備

家庭でできる簡易水防

簡易水のうの作り方
浸水が浅い場合には、土のう（なければ水のう）を設置することで、浸水防止に活用できます。



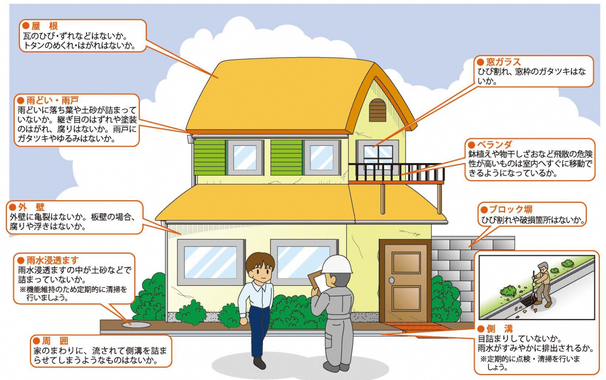
台所
床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて、水が入ることがあります。重しを置いて、水の浸入を防ぎましょう。

簡易水防１　プランター＋ビニールシート

簡易水防２　簡易水のう＋止水板

自宅まわりの風水害対策

風水害による家屋の被害を抑えるために、日ごろから家の周りの点検や整備を行いましょう。



防災訓練

佐野市では、２年に１回の総合防災訓練を実施しています。ハザードマップ説明会も実施しています。是非、参加しましょう。

非常持ち出し品

非常持ち出し品・備蓄品

非常時（避難時）に持ち出すものは、災害の発生に備えて、普段からリュックサックなどの非常用持出袋に準備しておきましょう。持ち出し品は最小限とし、両手は使えるようにしておきましょう。

使いながら備える「ローリングストック」
災害用に特別なものを用意するのではなく、日ごろから食べ慣れているもの、使い慣れているものを多めに備蓄し、消費したものを補充することを「ローリングストック」といいます。

災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板

■災害用伝言ダイヤル「１７１」

NTTドコモ	KDDI:au	ソフトバンク
http://dengon.docomo.ne.jp/	http://dengon.ezweb.ne.jp/	http://dengon.softbank.ne.jp/

利用方法：171にダイヤルガイダンスが流れる → 録音の場合 1 / 再生の場合 2 → 市外局番から電話番号を入力 被災地の方は自宅の電話番号を被災地以外の方は被災地の方の電話番号を（XXXX）XX-XXXX

■災害用Web伝言板
スマートフォン、パソコン等から、災害用 Web 伝言板（Web171）にアクセスすることで、テキストによる伝言（安否情報）の登録・確認を行うことができます。
https://www.web171.jp/
※各携帯会社でも、災害時に災害用伝言板のサービスを提供しています。